

うっしっしいー情報2024

10月市



豊岡農業改良普及センター

10月9日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が106万6千円、雌が84万7千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります ※検定牛含む）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	5	0.946	1,128,380	1	0.988	768,900	6	1,068,467
丹波篠山	2	0.976	1,055,450	3	0.857	867,167	5	942,480
丹波	24	0.984	1,083,500	11	0.903	831,900	35	1,004,426
朝来	5	0.986	1,176,120	6	0.863	882,750	11	1,016,100
播磨	11	0.826	836,700	12	0.803	702,992	23	766,939
美方郡	67	0.993	1,084,337	45	0.858	885,769	112	1,004,555
豊岡	16	0.943	1,024,306	16	0.859	861,988	32	943,147
養父	28	1.004	1,178,218	23	0.889	897,170	51	1,051,471
摂津・神戸	25	0.971	1,032,284	18	0.856	767,739	43	921,544
県北C	6	0.856	814,917	-	-	-	6	814,917
市場全体	189	0.971	1,066,494	135	0.863	847,106	324	975,082

10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	24	0.988	1,191,483	20	0.838	923,010	44	1,069,450
2	山伸土井	28	1.023	1,113,514	15	0.889	848,907	43	1,021,209
3	和倉土井	10	0.934	1,098,460	7	0.841	854,071	17	997,829
4	茂友美波	8	0.958	1,114,300	9	0.909	890,022	17	995,565
5	丸池土井	12	0.983	1,119,983	7	0.854	776,443	19	993,416
	総計	189	0.971	1,066,494	135	0.863	847,106	324	975,082
6	忠味土井	18	0.946	1,032,411	14	0.837	874,893	32	963,497
7	照和土井	14	1.011	1,071,714	10	0.867	776,160	24	948,567
8	丸彩土井	7	0.967	1,006,500	9	0.873	853,356	16	920,356
9	丸春土井	15	0.906	998,580	15	0.876	787,013	30	892,797

価格は税込み (検定牛含む、10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A+	A++	A+	A++	A+
2	山伸土井	A	A++ → A+	D	A+	A+	A
3	和倉土井	-	-	-	-	-	-
4	茂友美波	-	-	-	-	-	-
5	丸池土井	C	A++	D	B	A+	A++
6	忠味土井	B	A+	A	C	A+	A+
7	照和土井	A++	A	B → C	B	B	B
8	丸彩土井	B	B	A++	C	A	C
9	丸春土井	C	B	C	B	B	A+



バックナンバー
はこちらから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和6年8月現在)

10年前から子牛の出荷傾向は変わっている？

ここ最近、「子牛が大きくなってきている」、「遅出しが増えている」などの声をよく耳にします。そこで、過去10年間の但馬家畜市場の取引結果（雄、本人落としは除く、普及センター調べ）をもとに、去勢子牛の出荷傾向を分析しました。

【分析1】年度別の出荷日齢、出荷体重、日齢体重の推移

平成26年度～令和5年度の出荷日齢（以下日齢）、出荷体重（以下体重）、日齢体重（以下DG）を分析しました。平成26年度はDGが0.978kg/日と特に大きく、令和元年度(0.944kg/日)にかけてDGが小さくなり、その後、再びDGは0.960kg/日と大きくなってきています。日齢は、平成26年度(257日)から令和5年度(268日)にかけて延びています。体重についても、平成26年度(250kg)から令和元年度(245kg)にかけ減少したのち、令和5年度(256kg)まで増加傾向が続いています（図1）。

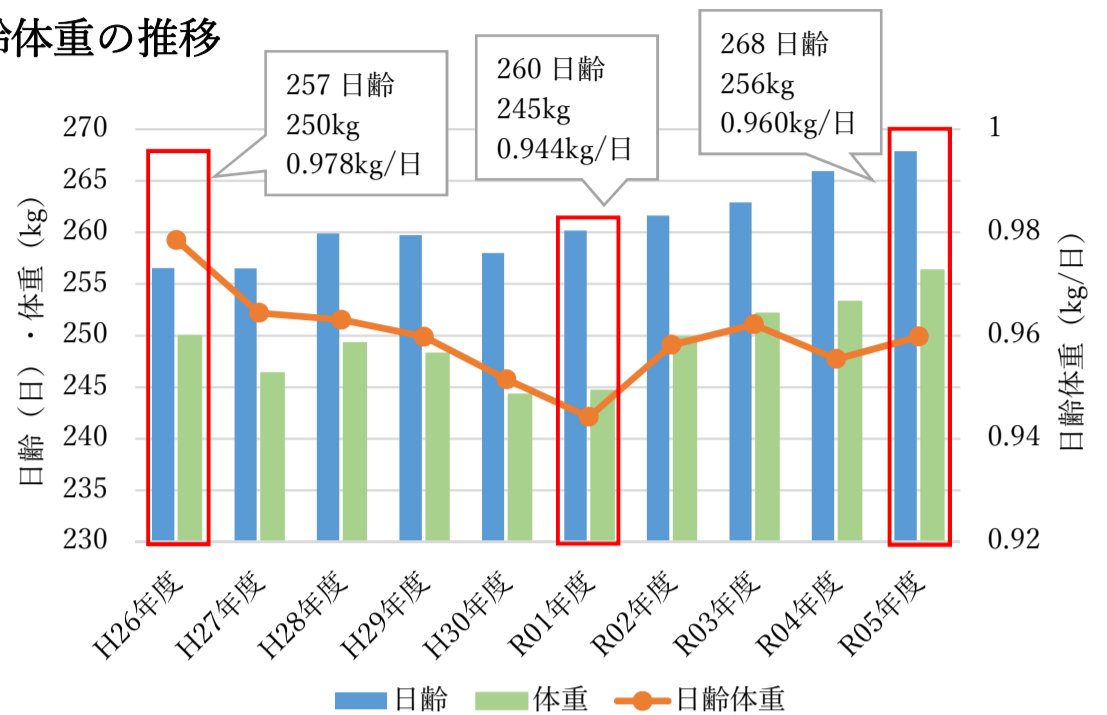


図1 年度別の日齢、体重、日齢体重の推移

【分析2】出荷日齢、出荷体重、日齢体重と平均価格対比

分析1を受け、平成26年度と令和5年度に焦点を当てさらに分析を行いました。体重別の平均価格対比（※）を比較すると、平成26年度は体重240～250kg以上、令和5年度は体重250～260kg以上が平均価格以上で取引されています。また、260kg超の子牛は、平成26年度より令和5年度の方がより高い価格で取引され、300kgを超えてもその傾向は続いています。一方、250kg以下の子牛は、令和5年度では、体重が軽いほど平均価格を大きく下回り、十分な発育（DG0.95kg/日以上）が得られなければ、10年前より市場評価が得られにくくなっていることが考えられます（図2）。

次に、日齢300日以上の取引について、DG0.95kg/日以下と0.95kg/日超で平均価格対比を比較しました。その結果、0.95kg/日以下はいずれの年度も平均価格を下回り、0.95kg/日超については、平成26年度は平均価格を下回り、令和5年度は平均価格を上回っていました（図3）。従って、近年は日齢が300日以上でもDG0.95超であれば、平均価格以上で取引されていることが分かりました。

<※平均価格対比>
取引価格が各市場の平均価格よりどれくらい高い or 低いを示す
(例) 100.0%の場合、平均価格と同じ価格で取引

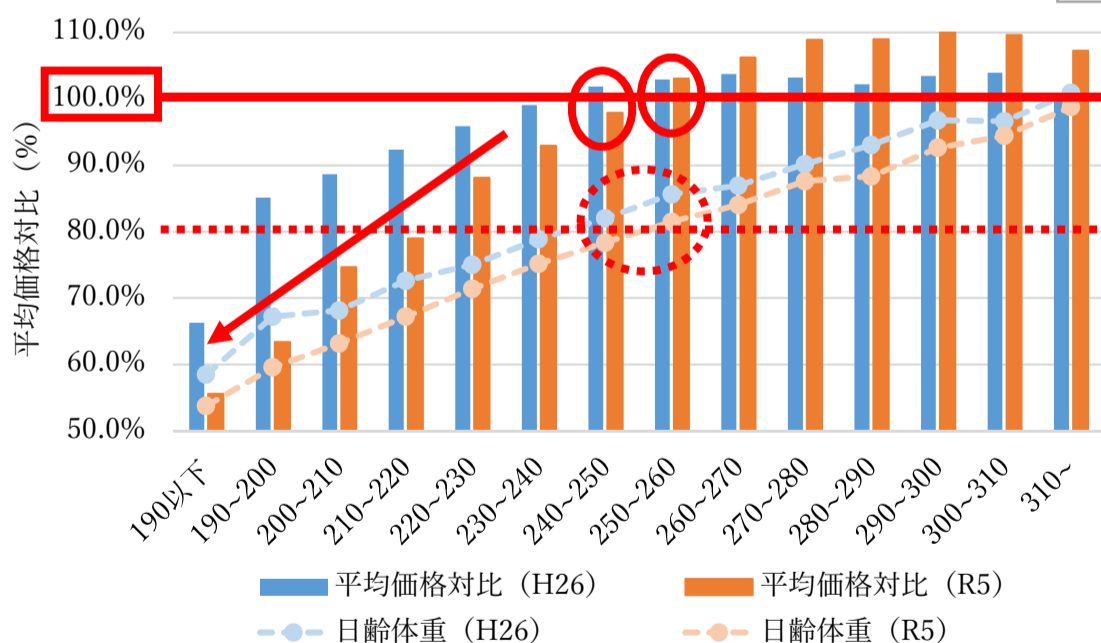


図2 体重と平均価格対比、日齢体重の比較

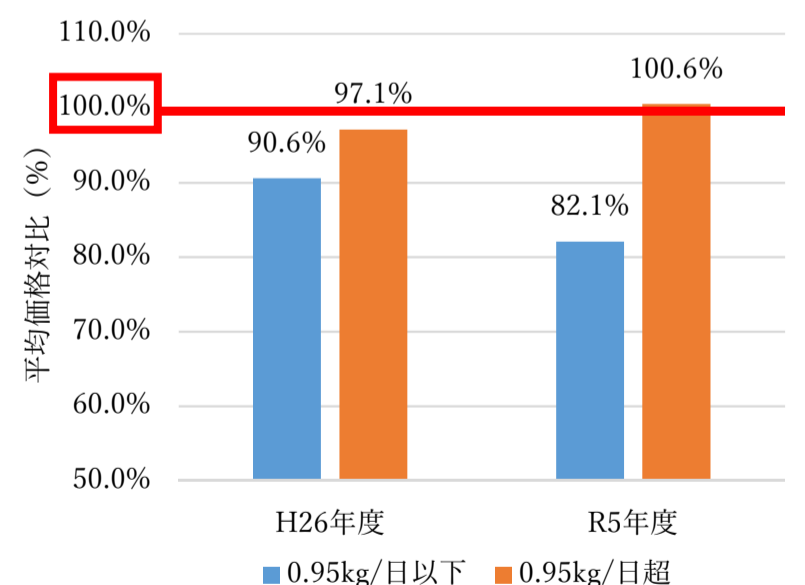


図3 出荷日齢300日以上の日齢体重別の平均価格対比の比較

【まとめ】

以上の分析結果から、近年の出荷傾向として次のようなことが考えられました。

- ①出荷までに要する日数が長く、出荷体重も大きくなってきている傾向にある。
- ②出荷体重250kg超、日齢体重0.95kg/日以上が平均価格以上で取引される。
- ③日齢300日以上でも、日齢体重0.95kg/日超であれば平均価格以上で取引される。

出荷が遅くなるほど飼養コストはかさむため、コスト面も考慮しつつ、まずは発育の良い子牛を育てましょう！